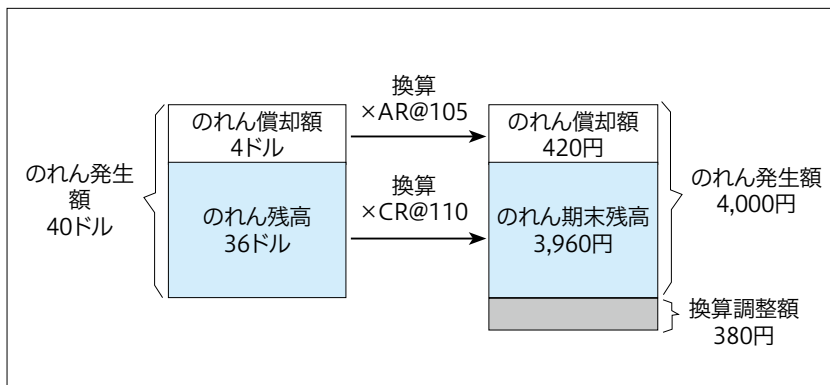


(図表11) 例題9の外貨建てのれんの図解



100%所有でない在外子会社に必要となる資本連結(支配獲得後)・開始仕訳(支配獲得時の投資と資本

において、「為替換算調整勘定」が子会社の資本(純資産)として計上されるため、当期純利益と同様に当期の発生した「為替換算調整勘定」(その他の包括利益)についても「非支配株主持分」へ按分する必要がある(例題9)(図表11)。

の消去)  
・当期純利益の非支配株主持分への按分

・配当金の振替  
・為替換算調整勘定(その他の包括利益)の非支配株主持分への按分

のれん償却、のれん換算…外貨建てのれんが発生している場合

## 第4章

# 内部取引消去や未実現損益消去など 在外子会社の連結消去・ 修正仕訳のポイント

## 内部取引消去

在外子会社の損益項目は原則とし

て期中平均レート(決算日レートも承認)で円換算するが、親会社との取引については親会社側で損益項目の計上時に利用したレート(取引日

### この章のエッセンス

- 内部取引(損益取引)の換算レートの違いによる差額は「為替差損益」で調整する。
- 在外子会社との間で生じた未実現損益額は、原則は発生日または取得日のレートで換算する。
- 国内会社から在外子会社へ売却した場合の未実現損益の簡便的な計算は、在外子会社の在庫金額(決算日レートまたは資産保有期間の平均レート)×国内会社の利益率で計算する。
- 在外子会社から国内子会社へ売却した場合の未実現損益の簡便的な計算は、国内会社の在庫金額×在外子会社の利益率で計算する。

(例題10) 内部取引消去

当期の在外子会社の損益計算書(現地通貨)は図表Aのとおりである。  
当期の在外子会社の売上原価のうち、親会社からの仕入によるものは200ドルであり、親会社の子会社に対する売上高は21,200円(200ドル×@106)であった。  
在外子会社の円換算後の損益計算書と当期の損益取引消去仕訳を示しなさい。  
また、換算に用いる為替レートは以下のとおり。  
・当期の期中平均レート 105円/ドル  
・親会社との取引日レート 106円/ドル

<図表A> 在外子会社の損益計算書(現地通貨)  
個別損益計算書(ドル)

売上原価	600	売上高	1,000
販管費	300		
当期純利益	100		

<回答>

(1) 子会社の円換算後の損益計算書  
個別損益計算書(円)

売上原価	※1 63,200	売上高	105,000
販管費	31,500	為替差益	※2 200
当期純利益	※3 10,500		

※1 (600-200(親会社との取引))×@105+200×@106=63,200

※2 200×(@106-@105)=200(レート差)

※3 100×@105=10,500(結果として期中平均レートで換算した結果となる)

(2) 損益取引消去仕訳

売上高	21,200	売上原価	21,200
-----	--------	------	--------